

■■寒さ対策？環境対策！■■

未明からの長時間待機が無くなった現在、一般参加者の防寒対策はそれほど重装備である必要はなくなっている。また冬コミ開催時期の東京の天候は概ね安定しており、晴天から急に雨や雪が降るといった天候の急変は起こりにくい。しかし、それは防寒対策や雨・雪対策が不要ということではない。一度会場に向かったら簡単に帰宅はできない以上、それでも、を考えて備えておくことは必要なのだ。

■トータル温度対策■

防寒と言えば当然寒さ対策だが、夏コミにおける暑さ対策とはやや事情が異なる。夏の熱中症と対として語られることの多い低体温症は、よほど迂闊な格好で来場するか、雨や雪に濡れた上で屋外で風に吹かれ続けるといった状況に陥りでもしなければ、現在の冬コミの環境下ではまず発生することはない。

逆に、交通機関内や午後の混んだ会場内など、意外と汗ばむことは多く、汗が衣服に残っていると身体を冷やすため、冬コミ参加の服装は、夏同様に汗のコントロールを考えてその上で動きやすさと、冷たい風を防いで身体を冷やさないことを考えるとよい。

●汗のコントロールと防寒

化繊・混綿のロング（長袖）アンダーウェアで肌表面温度を保つ。汗を残さない、万一濡れても乾きやすいことを重視しよう。

ボトムスポン1枚ではなく、アンダーウェアを着用した方が防寒・防風面で有効。スカート類の場合もストッキングやタイツを着用し保温と脚の保護を図ろう。靴下もヒザ下までである厚手生地の防寒ハイソックスなら、足元からの冷えと長時間歩き続ける際の疲労を低減してくれる。

●動きやすさと防寒

アンダーウェアでしっかり防寒しておけば、上に何枚も重ね着する必要はない。その分身軽に活動できるので、汗もかきにくくなる。上着もあまり分厚く暖かすぎるものより、薄手でも防風と防水（撥水）の機能がしっかりしたものを選べば万一の雨や雪の際にも心強い。

●スポット防寒

それでも寒いと感じるなら、防寒グッズを活用しよう。定番だがカイロは貼るタイプのもを後腰部と背中中央に貼っておこう。特に後腰部（ちょうどベルトライン付近の中央部）を温めることは疲労軽減の意味でも効果的なので男女問わずオススメしたい。薄手の腹巻きを併用するとなお防寒・疲労軽減効果が高くなる。

カイロは長時間直接肌に当て続けると低温やけどを起こす危険もあるので、背中に貼るなら上着の裏側、腰に貼るならズボンやスカートなどボトム側に貼って少しでも肌から離れた方がよい。

ぽかぽか



●冬の悪天候は突然にはやっこない

関東地方外からコミケットに参加する方も多いと思われるが、冬の関東地方の天候は基本的に晴れで安定しており、雨や雪などの天候崩れは予め気象情報として予報される。

なのでコミケット当日に悪天候予想が出ているなら、最初からそれに対応した服装・装備で出かけるべきだ。冬の雨の中での参加は結構なハードモードとなるため、雨や雪の中屋外で待機する時間を極力短くできるように会場到着時間は少し遅めに変更しよう。

その上でしっかりした防水の靴を履き、上着も雨具兼用の高撥水機能のあるものを着、バッグや帽子、手袋などにも防水スプレーを……と、考えること、準備することは多い。

コミケット会期中の天候は常にチェックし、天候が崩れる予報が出たら服や靴、雨雪対策グッズ類の手配は早めに行おう。なにせ冬コミは年末に開催されるので、直前だと店舗や通販サイトが年末年始休業に入っていたり、通販商品も普段より到着に時間がかかったりもするからだ。

■気象庁：東京江東区の気象情報▶

